つながる すみだ人（びと）

私の好きな すみだ

今月の1枚
「総武線のガード下で」
【撮影】鈴木光雄さん

本コーナーへの写真を随時募集しています。詳細は、今号3面をご覧ください。

[問合せ]広報広聴担当 ☎5608－6223

加藤寿男さん（押上在住）

すみだを愛し、すみだで活躍する人をリレー形式で紹介する「つながる すみだ人」。お話を伺った方に次の方を紹介していただき、すみだを愛する人をつないでいきます。

第3回目は、押上在住の加藤寿男さん。健康のためにマラソンを始めて18年。還暦を過ぎた今でも、3時間半を切る速さでフルマラソンを完走しています。また、マラソンですみだを盛り上げようと精力的に活動されています。

Q. 加藤さんは現在、すみだでどのような活動をしていますか？

「すみだランRun倶楽部」（すみラン）で、朝ランニングを開催しています。火曜日は、おしなり橋に集合し大横川親水公園等を、木曜日は、東あづま駅に集合し旧中川沿いを走ります。約5キロを45分、仲間と会話しながら走り、その後みんな気持ちよく仕事に向かいます。休日は、すみだを起点に少し遠出するマラニック等もやっています。

会員は280人。すみだで生まれ育った私の様な会員から、地方や外国から来た会員、転勤先などで走っている会員もいて、走ることですみだと世界がつながっています。年齢層は20代～60代と幅広いですが、大半が40代以下とフレッシュで、地元で始まり地元に密着したランニングクラブは、23区でもあまりないと思います。

すみランは私の人生の一部。ここから人と人とのつながりが生まれ、区の活性化にもつながっていると思うと、立ち上げてよかったなと感慨深いし、これからもがんばろう、と身が引き締まります。

Q. すみランをすみだで立ち上げたのには何かきっかけがありますか？

平成20年に始めた「東京マラソンを招致する会」が発端です。「ランナーに魅力あるすみだを走ってほしい。そして、すみだを元気にしたい。」という思いで始めたこの活動ですが、マラソンシンポジウム、1万6000人もの署名集め、すみだを走るミニマラソン大会等・・・いろんなことをやりました。途中、「もうだめか」と思うこともありましたが、諦めずに招致活動を続け、苦節8年。すみだの一部がコースになったときは本当にうれしかったですね。

招致活動を続ける中で、「走ることによって、人のつながりをすみだで育むランニングクラブを作りたい。」と思うようになりました。偶然にも、それまでの私たちの活動を知った一人の若者ランナーが「私も、一緒にやりたい。」と来てくれて意気投合し、彼と招致する会の仲間たちと共に「すみだランRun倶楽部」を25年4月末に設立しました。

【写真左】すみラン５周年のパーティにて

【写真右】おそろいのＴシャツやSNSへの投稿など、すみランは、ランニングライフを楽しむことを大事にしています

Q. 生まれも育ちもすみだの加藤さんは、すみだのどんなところが好きですか？

すみだは川に囲まれているのがいいですね。隅田川や荒川、旧中川などがあるのでいいコースになっています。また、少し走れば皇居やお台場、葛西臨海公園など、近隣区のいろいろな場所を巡ることもできます。すみだってマラソン天国です。それから、まだまだ新しいことが何でもできそうな予感のするところが魅力的ですね。新しい人をどんどん受け入れる柔軟さもある。すみランが一つの例であるように、地元の人と新しく入ってきた人とのつながりができ、そこから新しいことや楽しいことが生まれる。またまた面白くなりそうだな、と感じています。

次回登場してくださるのは・・・

加藤さんのマラソン仲間、「すみだクリエイターズクラブ」の三井さんご夫妻です。

三井 千賀子さん

三井 浩さん

[問合せ]広報広聴担当 ☎5608－6223

夢 家族で、地域でつながろう

墨田区長
山本 亨

7月上旬、西日本を中心とした広い範囲で記録的な豪雨となり、土砂災害等による甚大な被害が発生しました。犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

この災害の発生により、水防訓練や日頃の備蓄などの重要性を再認識しました。

区では、想定し得る最大規模の洪水による浸水想定区域等を掲載した「墨田区水害ハザードマップ」を作成し、6月に全戸配付しました。この機会に、自宅周辺の浸水の深さや避難場所、備蓄品等の確認をお願いします。

また、6月30日に、区と消防署や消防団、災害時支援ボランティア等と合同で実施した水防訓練は実践的な内容で、参加した皆さんの統制のとれた動きを拝見し頼もしく思いました。

さて、子どもたちが夏休みの今、家族で共に過ごす時間や地域の催しに参加する機会も多いと思います。様々な年代の人と接し、多様な価値観に触れられるこうした場は、相手を思いやる気持ちやコミュニケーションの取り方など、子どもたちが社会性を身に付ける良い機会です。また、地域の行事等を通して大人同士の交流も生まれ、地域コミュニティの形成につながります。昨今、子どもが犠牲になる痛ましい事件が相次いでいますが、良好なコミュニティが形成されていれば、子どもの変化や不審者等に気付きやすくなり、地域の防犯力も高まります。加えて、水害や地震など災害時に必要となる「共助」の面でも地域のつながりを密にしておくことは大切です。

今年の夏は、盆踊りやラジオ体操など、地域の行事や活動にぜひ参加し、交流の輪を広げていただければと思います。

荒川河川敷で行われた合同水防訓練では、皆さん緊張感を持って訓練に臨んでいました。